

## 自由民主党青年局主催「公開討論会」

平成20年9月16日(火)14時00分

### 麻生太郎冒頭所見発表(要旨)

麻生太郎です。

ジョン・F・ケネディという政治家と自分とは、たぶん政治信条において、いろいろと違うところがあると思っております。

しかし演説は抜群でした。

そこでまず、冒頭に申し上げたいのは、ケネディの演説で最も有名な、例の一節です。

「問うことをやめよ、国家が諸君に何をしてくれるかを」。

「諸君が国家に対し、何をできるのか。それをこそ問え」

という、あの言葉であります。

わが自民党の、未来を担う青年部の皆さん。

国家に、政府に、自民党に、「あれをしてもらおう、ついでにこれも」

そう考えているうちは、日本に、未来は、ありません。

「お母さん、アメちょうだい」。そういう軟弱なおねだりは、民主党にやらせておけばよろしい。

「あれも、これも、なさねばならぬ」

我々一人一人、そう考えないでどうしますか。

わたしは、総理総裁に、「なりたい」のでは、ありません。

「なりたい」のではなく、なった後で、「やりたい」ことがいろいろとある。

だからこそ、総理総裁をめざすのであります。

これから1年、関が原です。

天下、分け目であります。

わが自民党、絶対に、どんなことがあっても、政権を渡すわけにはいかない。

この総裁選挙を、政治ショーだ、などという向きがある。とんでもない話だ。

5人が5人とも、死に物狂いでやっているのは何のためか。

国民に、わが自民党のど根性を見せるためでしょう。

土性骨を見せて、政権政党が、自民党以外にはありえないという、それを見せるためでしょうが。

22日、誰が総裁になっても、そっからがスタートです。

麻生太郎、不退転の決意、身命を投げ出す覚悟で臨んでまいります。

いまの若いもんは、と、いつの時代でも言うもんです。

わたしは、不良でしたから。

いまだきの若いもんは、と言われ続けていたようなもんです。

だから言うのではありませんが、いまの若い世代が、だらしないなどと思ったためしはない。

ここ数年でいちばん感動した顔は、イラクの勤務から帰ってきた陸上自衛隊の、若者の顔です。

手ごたえのある仕事を立派にこなすと、こんなに晴れ晴れと、いい顔になるものかと感動した。

だから若者には、職の機会を与えてやらにゃいかん。

その職というのも、場当たりではだめなんです。

人間、努力が報われるのには、一年、二年の単位で時間がかかる。

一ヶ月とか、ひどいときには一週間で仕事が変わるようでは、自分に投資する暇がない。

ないから、捨て鉢になる。

「雇われる能力」、エンプロイアビリティ (employability) が、また減っていく。

その悪循環。これは、止める。止めねば日本の将来にかかわる。

若者に、未来の設計ができるだけの機会を与え、希望をもたせること。

そこが、すべての、あらゆることの、出発点なんだと存じます。

子供が生まれない、経済が伸びない。

こういったことの原因を取り除こうと思ったら、若者に投資する「ニューディール」が要る  
のである。それこそが、21世紀のインフラ投資である。

お約束します。

「若者支援基本法」をこしらえます。

地域ぐるみで、よってたかって、若者たちのエンプロイアビリティを高めてやる。

それをこの法律でやりたい。

デンマークやイギリスに、実例があります。

働き始めました。一月経った。出てこなくなった。

放っておくと、その若者はまたフリーターになる。

そんなとき、一本の電話がなるんです。

「明日、待ってるよ」

それでふっと、背中が押されて、また復帰する。

こういうことも、やらねばならん。

マクロの日本経済にとっても、いまは労働分配率を上げてやるべきです。

そうしないと、縮小再生産の輪に入っていってしまう。

次。若者と地方の問題。

地方経済の停滞やら、農業の衰退というのは、若者に職の機会がないところから来ている。

どうやって地方に職の機会をつくるか。

レディメードの答はない。ないなら考えてもらわにゃならん。

地方の問題を解決するには、首長に、経営者になってもらうことです。

そのため必要な税源や、権限を、いわば経営資源として、思い切って譲り渡すことです。

年金・医療・教育などの国民の基本的な暮らしは、国が保障する。

財源が足りない市町村には、地方交付税できちんと面倒を見る。

分権しても直ちには、地域経営できないところもあろう。

そこは、補助金や交付税で応援しなければならない。

要はわが自民党、伸びる芽に水をやり、肥やしをやる党である。

あらねばならぬと、そういうことだと思います。

21 世紀の、日本の浮沈はこれができるかどうかにかかっている。

そしてそれができるのは、民主党ではありえない。我が自由民主党のみである。

麻生太郎、一身をなげうって、これを証明していきたい。

ご支持を、圧倒的なるご支持を、こいねがいます。